---------- (はじまり) ----------

タケシ「アスカ先輩〜。例の仕事終わりましたよ！」

アスカ「ちょっと、新人。馴れ馴れしくしないでよ。配属されてからまだ一ヶ月でしょ」

タケシ「ハハ。思ったより速攻で仕事が終わったんで、つい。えっと、当社の顧客50人に次期商品の期待度についてアンケートをしたんですけど、60%が期待しているって回答で、40%が期待していないという回答だったんですよ。次期商品に期待している人が過半数を超えて圧倒的みたいです！」

アスカ「期待している顧客が多そうね…。でも、圧倒的ってのは『他とは掛け離れて優れていること。他を全く凌いでいること』なんだけど、そんなに凄い数値かなぁ」

タケシ「確かにどれくらいの数値だと圧倒的って言うのか知りませんけど、それでも、まぁ、期待が3/5なんだから圧倒的とみていいんじゃないですかね」

アスカ「ふーん。でも、そもそも、50人にアンケートとは言っているけど、全顧客の代表ってわけじゃないし、アンケートを取った50人がかなり偏った考え方をする人ばっかりだったらどうするのよ？」

タケシ「そ、それは…」

*

アスカ「そういう場合は、アンケート結果が、たまたま偶然に60%と40%に分かれたとは言えないと統計的に証明できればいいわけだから、今回は母比率の検定で調べてみればいいんじゃない。電卓計算すると…」

アスカ「結果は7.9%か…。有意水準5%を越えちゃってるようね。すると、次のことが言えるわ」

⇒60%の期待は偶然かもしれない。
⇒同じアンケートを再度実施すると今度は50%を切るかもしれない。
⇒その確率が7.9%ある。

アスカ「つ・ま・り、次期商品の期待度は過半数を占めているとは言えないことになるわね」

タケシ「60%もあるのにですか！？」

アスカ「統計的には偶然だったという可能性を否定するには、もうちょっと
アンケート件数を増やしたほうがいいよってことね」

---------- (つづく) ----------

Copyright(C) 2005 rpn hacks! All rights reserved